

【人口・世帯に関する項目】

(1) 人口増加率 -0.80%

指標の説明

「人口増加率」とは、ある期間の始めの時点の人口総数に対する、期間中の人口増加数（自然増減＋社会増減）の割合で、人口の変化量を総合的に表す指標として用いられる。

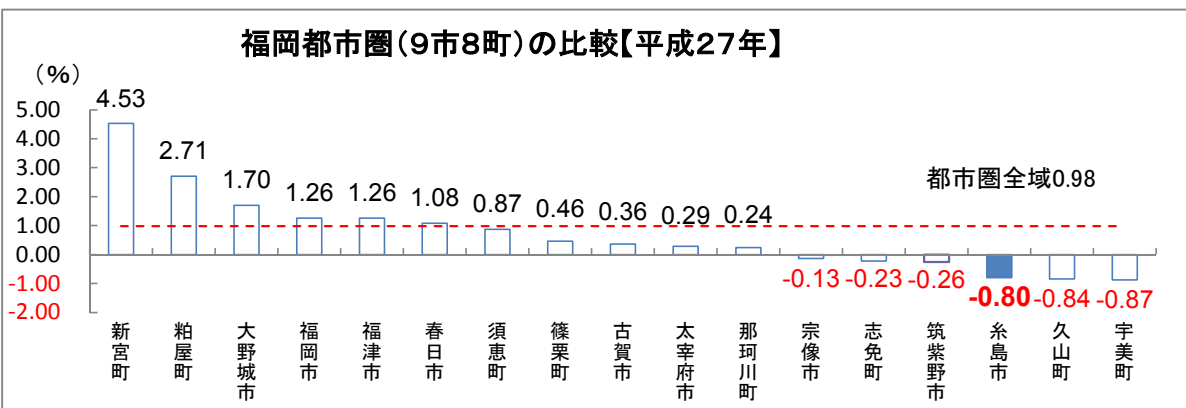
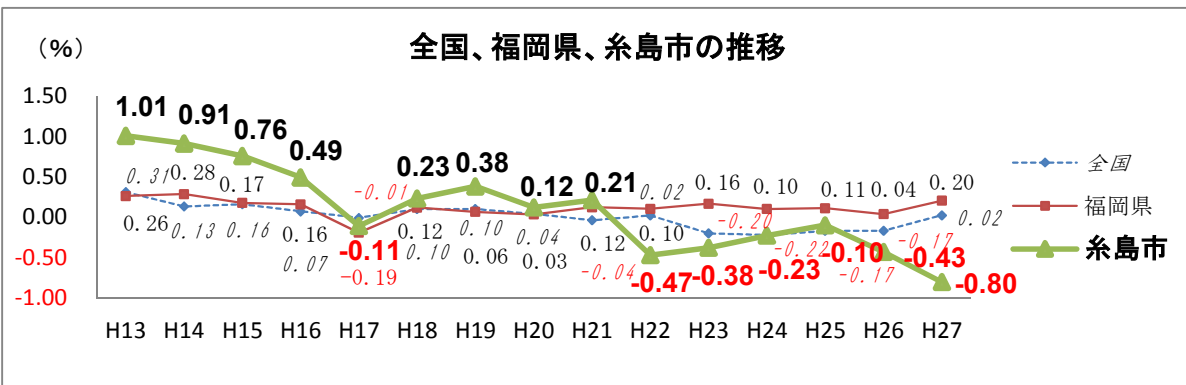
指標の算出根拠
基礎データの資料

人口増加率＝期間中の人口増加数÷期間の始めの人口総数

【人口増加数：-781人、人口総数：97,313人
（平成27年10月1日現在（糸島市））

※平成17年、平成22年、平成27年の数値については、国勢調査人口。
※平成27年の数値については、平成27年国勢調査の速報値。

資料：総務省統計局「人口推計」
福岡県調査統計課「福岡県の人口と世帯年報」



統計データ(グラフ)
から見る市の動向

平成27年の糸島市の人口増加率は、-0.80%。平成13年以降でみると減少傾向にあり、平成22年以降はマイナス値が続いている。

また、全国の0.02%と比べ0.82ポイント、福岡県の0.20%と比べ1.00ポイント低い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち3番目に低い。

※福岡都市圏全域の人口増加率は0.98%

※福岡都市圏9市8町の人口増加率の単純平均は0.68%

(2) 自然増加率 -0.26%

指標の説明

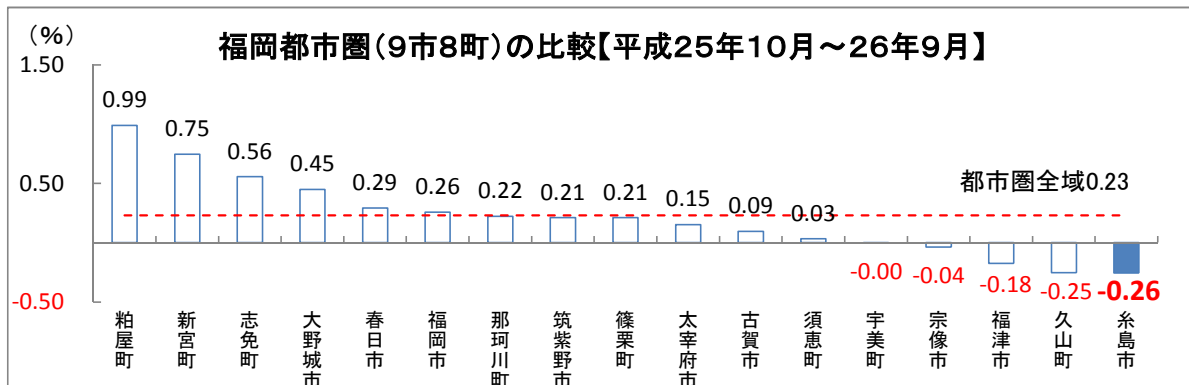
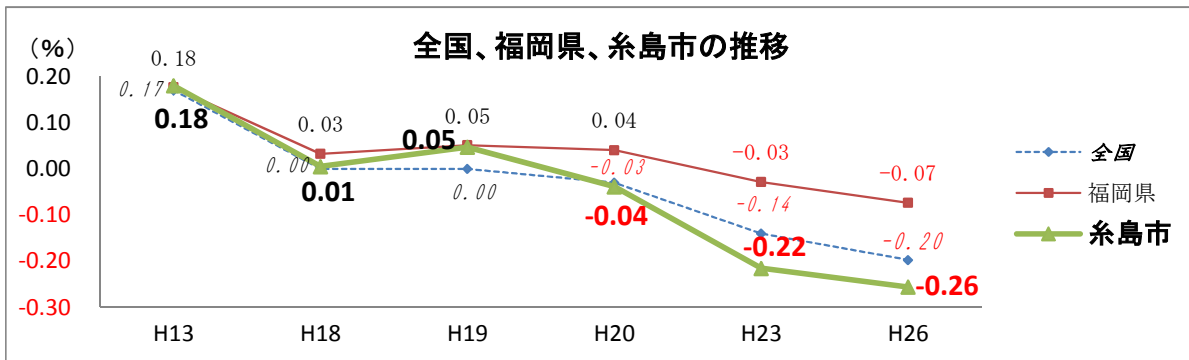
「自然増加率」とは、ある期間の始めの時点の人口総数に対する、期間中の自然増加数（出生数－死亡数）の割合で、人口の増減を、出生及び死亡による自然増減の観点からみる指標として用いられる。

指標の算出根拠 基礎データの資料

自然増加率＝期間中の自然増加数÷期間の始めの人口総数

【自然増加数：-250人（うち、出生者数：683人、死亡者数：933）、人口総数：97,735人（平成25年10月～平成26年9月・糸島市）】

資料：総務省統計局「人口推計」
福岡県調査統計課「福岡県の人口と世帯年報」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成26年の糸島市の自然増加率は、-0.26%。平成13年以降で見ると、平成19年まではプラスで推移していたが、平成20年以降はマイナスに転じている。

また、全国の-0.20%と比べ0.06ポイント、福岡県の-0.07%と比べ0.19ポイント低い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち最も低い。

※福岡都市圏全域の自然増加率は0.23%

※福岡都市圏9市8町の自然増加率の単純平均は0.21%

(3) 社会増加率 -0.18%

指標の説明

「社会増加率」とは、ある期間の始めの時点の人口総数に対する、期間中の社会増加数（転入者数－転出者数）の割合で、人口の増減を、転入及び転出による社会増減の観点からみる指標として用いられる。

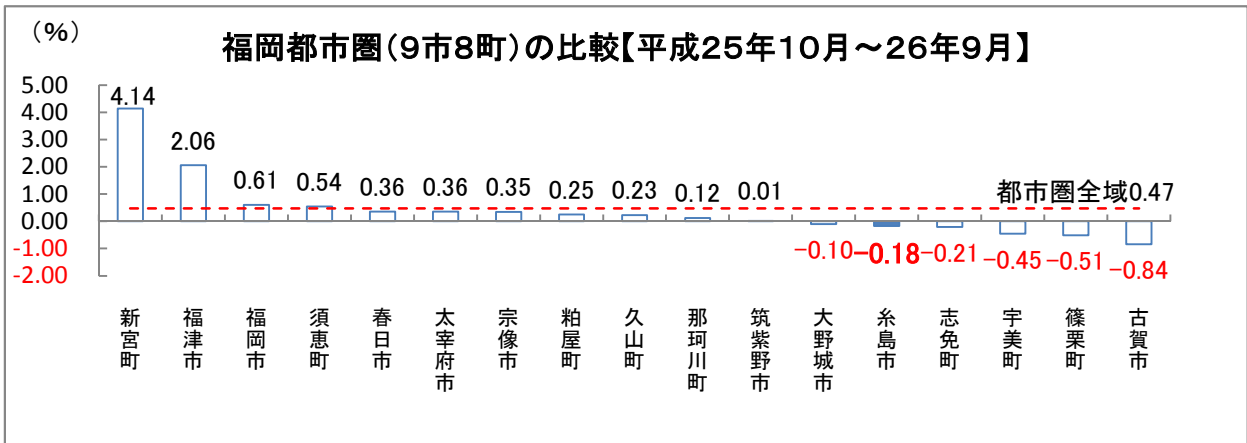
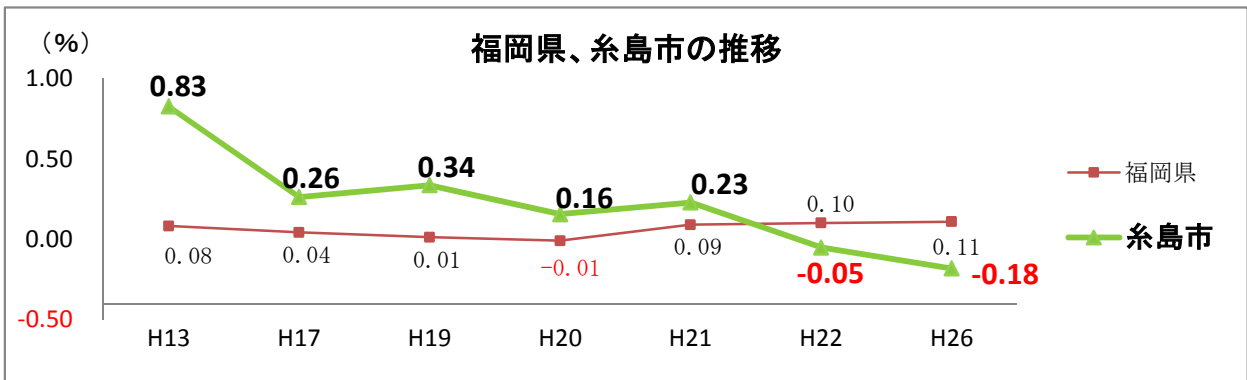
なお、ここでは市町村（都道府県）間の転出入による社会増減を指標とするため、全国については記載しない。

指標の算出根拠 基礎データの資料

社会増加率＝期間中の社会増加数÷期間の始めの人口総数

【社会増加数：-172人（転入者：3,660人、転出者：3,832人）、
人口総数：97,735人（平成25年10月～平成26年9月・糸島市）】

資料：福岡県調査統計課「福岡県の人口と世帯年報」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成26年の糸島市の社会増加率は、-0.18%。平成13年以降で見ると減少傾向にあり、13年間で1.01ポイント減少している。

また、福岡県の0.11%と比べ0.29ポイント低い。
福岡都市圏内では、全17市町のうち5番目に低い。

※福岡都市圏全域の社会増加率は0.47%

※福岡都市圏9市8町の社会増加率の単純平均は0.40%

(4) 昼夜間人口比率 80.4%

指標の説明

「昼夜間人口比率」とは、夜間人口（常住人口）に対する昼間人口の割合で、一般に都心部では値が大きく、郊外（ベッドタウン）では小さい。

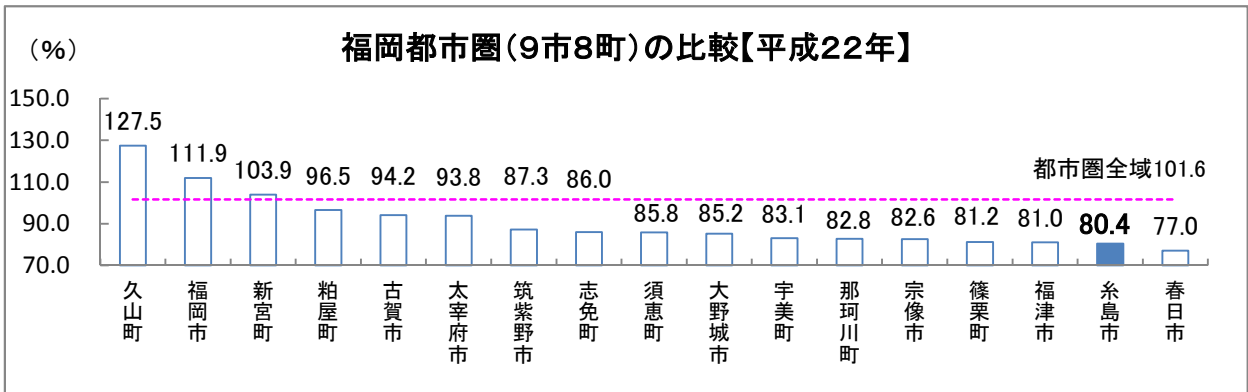
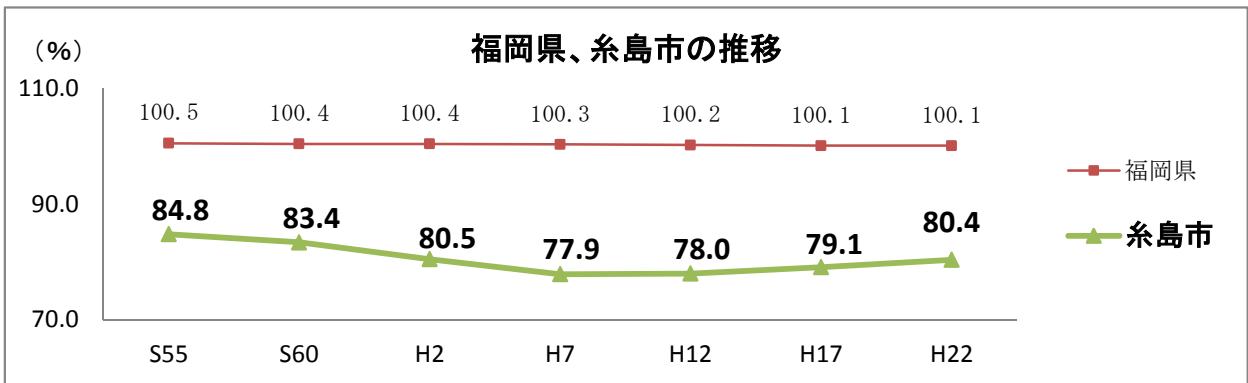
昼間人口：常住人口－市外への通勤・通学者＋市外からの通勤・通学者
 夜間人口：市内に住んでいる人口（＝常住人口）

指標の算出根拠 基礎データの資料

昼夜間人口比率＝昼間人口÷夜間人口

【昼間人口：79,125人、夜間人口：98,435人（平成22年・糸島市）】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の昼夜間人口比率は、80.4%。昭和55年以降でみると、平成7年までは一貫して減少していたが、平成12年には増加に転じている。なお、昭和55年からの30年間で4.4ポイント減少している。

また、福岡県の100.1%と比べ19.7ポイント低い。
 福岡都市圏内では、全17市町のうち2番目に低い。

※福岡都市圏全域の昼夜間人口比率は101.6%

※福岡都市圏9市8町の昼夜間人口比率の単純平均は90.6%

(5) 年少人口割合 14.4%

指標の説明

「年少人口割合」とは、人口総数に占める年少人口（15歳未満）の割合で、少子化の傾向をみる指標の一つとして用いられる。

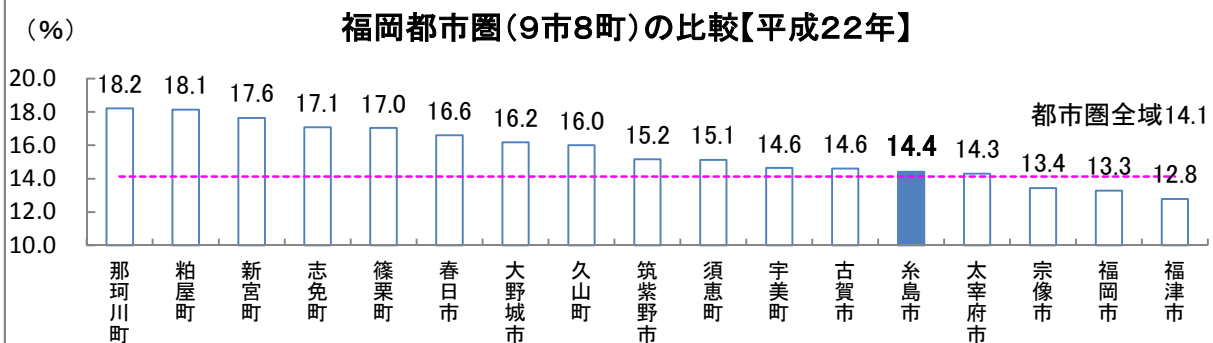
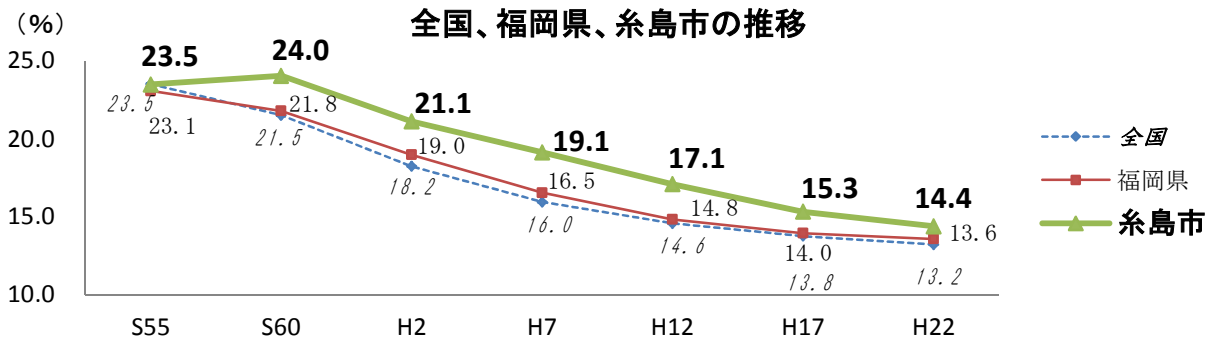
指標の算出根拠 基礎データの資料

年少人口割合＝年少人口÷総人口

【年少人口：14,165人、人口総数：98,255人（平成22年・糸島市）】

※年齢不詳は含まない。

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の年少人口割合は、14.4%。昭和60年以降でみると、一貫して減少しており、昭和55年からの30年間で9.1ポイント減少している。

また、全国の13.2%と比べ1.2ポイント、福岡県の13.6%と比べ0.8ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち5番目に低い。

※福岡都市圏全域の年少人口割合は14.1%

※福岡都市圏9市8町の年少人口割合の単純平均は15.6%

(6) 生産年齢人口割合 63.7%

指標の説明

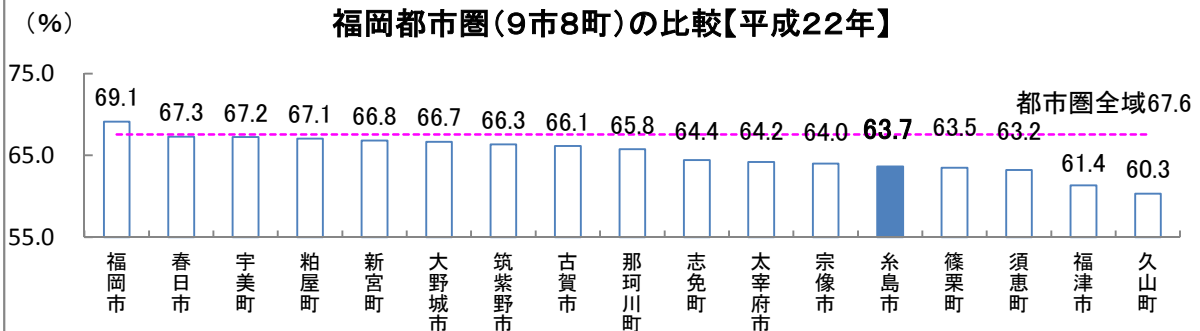
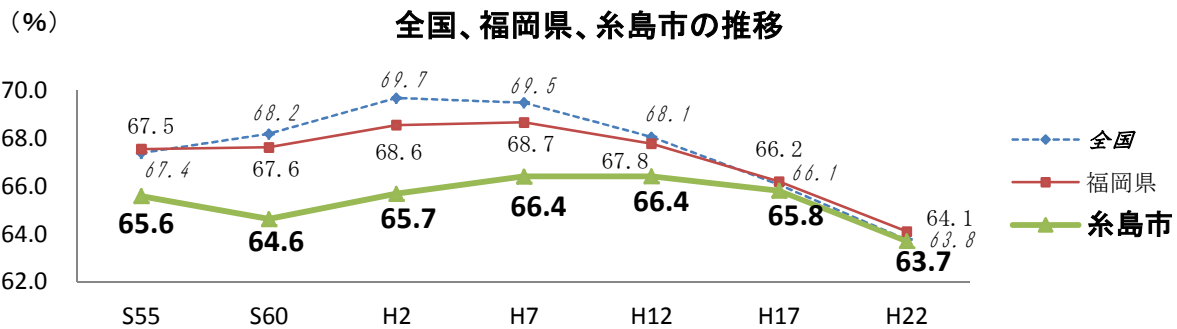
「生産年齢人口割合」とは、人口総数に占める生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合。労働力や消費の中核をなす年齢層であるため、経済指標などにも用いられる。

指標の算出根拠 基礎データの資料

生産年齢人口割合＝生産年齢人口÷総人口

【生産年齢人口：62,542人、人口総数：98,255人（平成22年・糸島市）】
※年齢不詳は含まない。

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ)から見る市の動向

平成22年の糸島市の生産年齢人口割合は、63.7%。昭和60年以降は増加傾向にあったが、平成17年で減少に転じ、昭和55年からの30年間で1.9ポイント減少している。

また、全国の63.8%と比べ0.1ポイント、福岡県の64.1%と比べ0.4ポイント低い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち5番目に低い。

※福岡都市圏全域の生産年齢人口割合は67.6%

※福岡都市圏9市8町の生産年齢人口割合の単純平均は65.1%

(7) 老年人口割合 21.9%

指標の説明

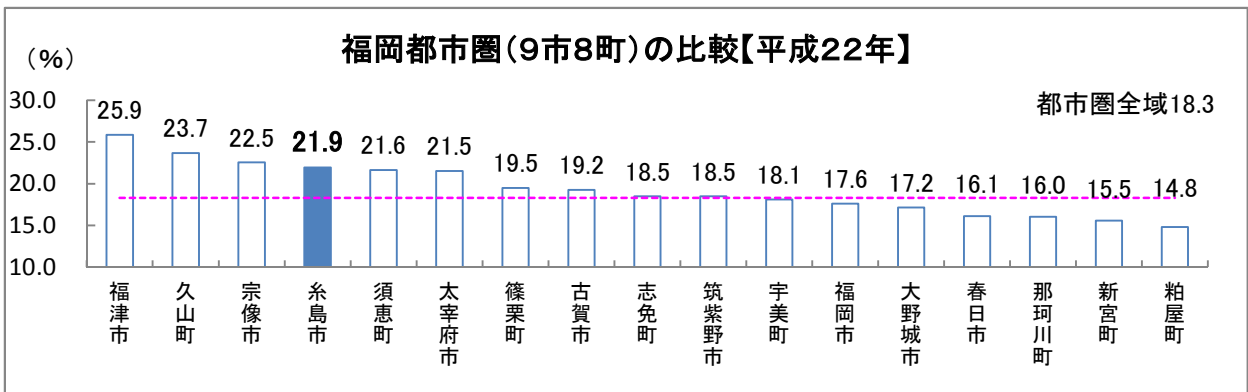
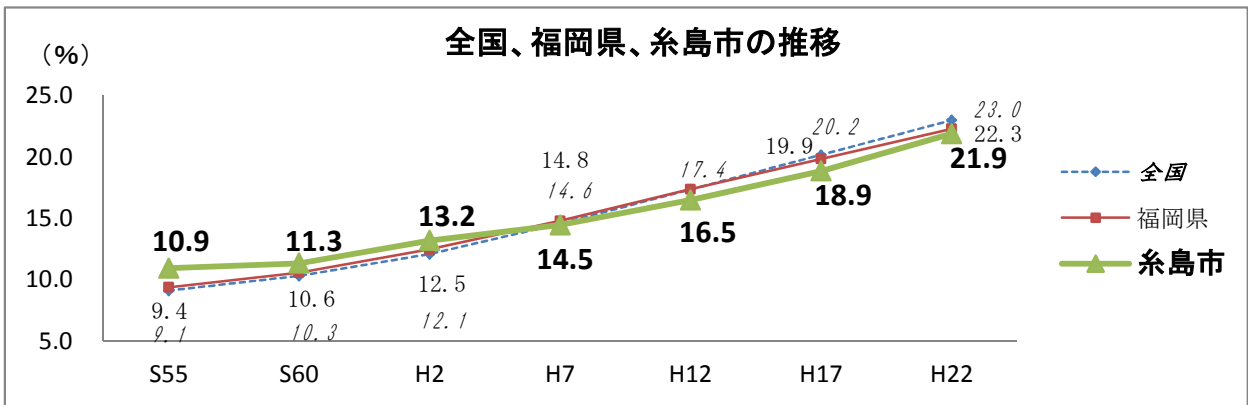
「老年人口割合」とは、人口総数に占める老年人口（65歳以上）の割合で、人口の高齢化の程度を知る指標の一つとして用いられる。

指標の算出根拠 基礎データの資料

老年人口割合 = 老年人口 ÷ 総人口

【老年人口：21,548人、人口総数：98,255人（平成22年・糸島市）】
※年齢不詳は含まない。

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の老年人口割合は、21.9%。昭和55年以降で見ると、一貫して増加しており、30年間で11.0ポイント増加している。
また、全国の23.0%と比べ1.1ポイント、福岡県の22.3%と比べ0.4ポイント低い。
福岡都市圏内では、全17市町のうち4番目に高い。

※福岡都市圏全域の高齢人口割合は18.3%

※福岡都市圏9市8町の高齢人口割合の単純平均は19.3%

(8) 従属人口指数 0.57

指標の説明

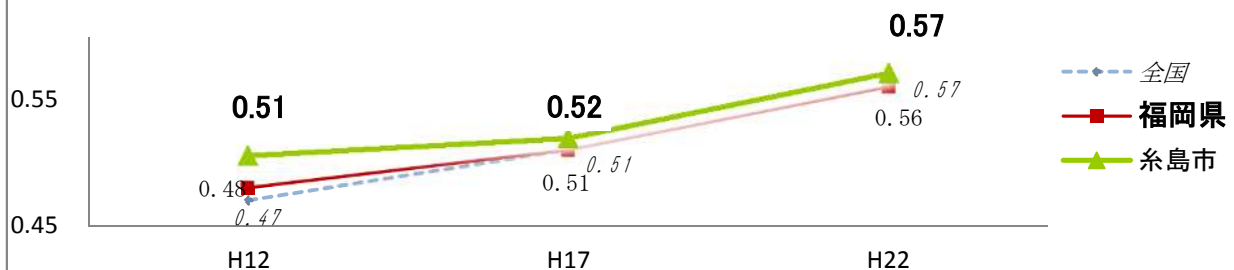
「従属人口指数」とは、働き手である生産年齢人口が、年少者と高齢者をどの程度支えているかを示すものである。

指標の算出根拠 基礎データの資料

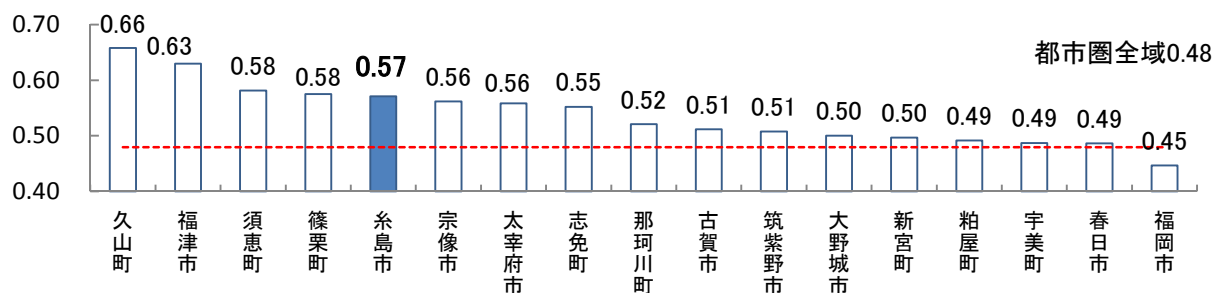
従属人口指数 = (年少人口 + 老年人口) ÷ 生産年齢人口
 【年少人口14,165人、老年人口21,548人、生産年齢人口62,542人
 (平成22年・糸島市)】
 ※平成12年及び17年は、1市2町の合算値。

資料：総務省統計局「国勢調査報告」

福岡県、糸島市の推移



福岡都市圏(9市8町)の比較【平成22年】



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の従属人口指数は、0.57。平成12年以降で見ると、一貫して増加しており、10年間で0.06ポイント増加している。
 また、全国の0.57と同じで、福岡県の0.56と比べ0.01高い。
 また、福岡都市圏内では、全17市町のうち5番目に高い。

※福岡都市圏全域の従属人口指数は0.48

※福岡都市圏9市8町の従属人口指数の単純平均は0.54

(9) 3世代世帯割合 12.1%

指標の説明

「3世代世帯割合」とは、世帯総数（一般世帯）に占める3世代世帯数の割合で、世帯構造の変化をみる指標として用いられる。

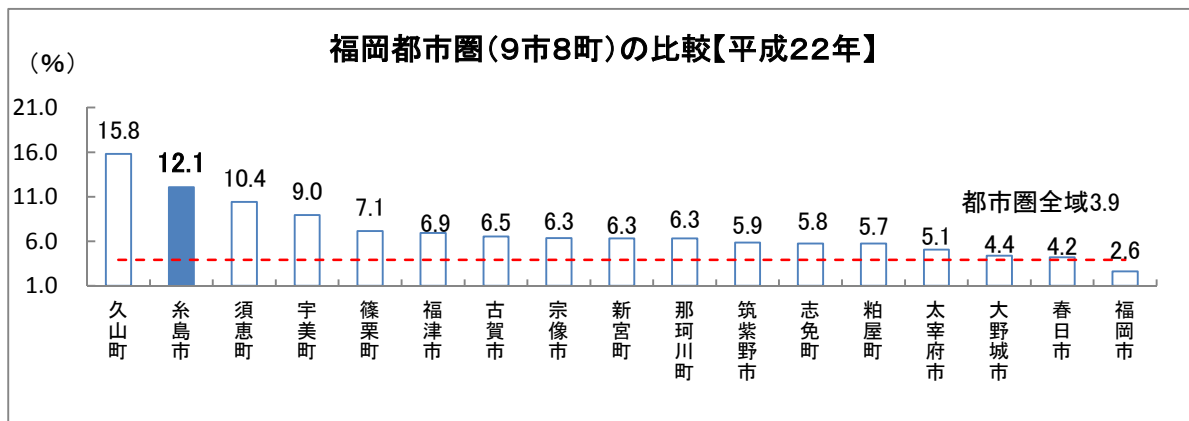
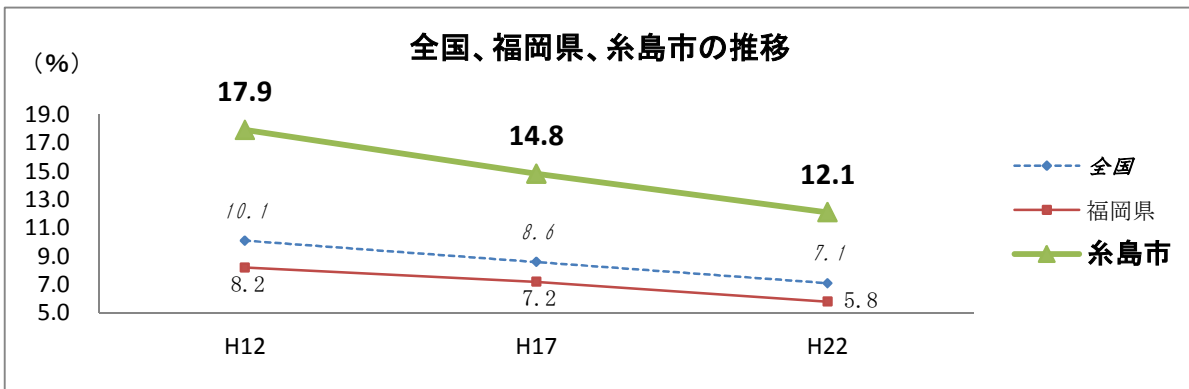
3世代世帯：世帯主との続き柄が、祖父母、世帯主の父母（又は世帯主の配偶者の父母）、世帯主（又は世帯主の配偶者）、子（又は子の配偶者）及び孫の直系世代のうち、三つ以上の世代が同居していることが判定可能な世帯をいい、それ以外の世帯員がいるか否かは問わない。4世代以上が住んでいる場合も含む。

指標の算出根拠 基礎データの資料

3世代世帯割合 = 3世代世帯数 ÷ 世帯総数

【3世代世帯数：4,069世帯、世帯総数：33,720世帯
(平成22年・糸島市)】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の3世代世帯割合は、12.1%。平成12年以降で見ると、一貫して減少しており、10年間で5.8ポイント減少している。また、全国の7.1%と比べ5.0ポイント、福岡県の5.8%と比べ6.3ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち2番目に高い。

※福岡都市圏全域の3世代世帯割合は3.9%

※福岡都市圏9市8町の3世代世帯割合の単純平均は7.1%

【人口・世帯に関する項目】

(10) 粗出生数 6.99人 (人口千人当たり)

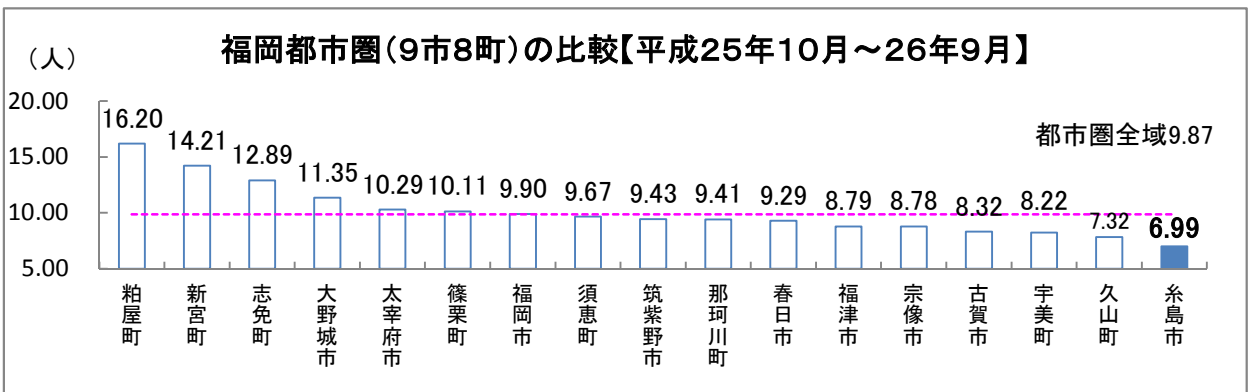
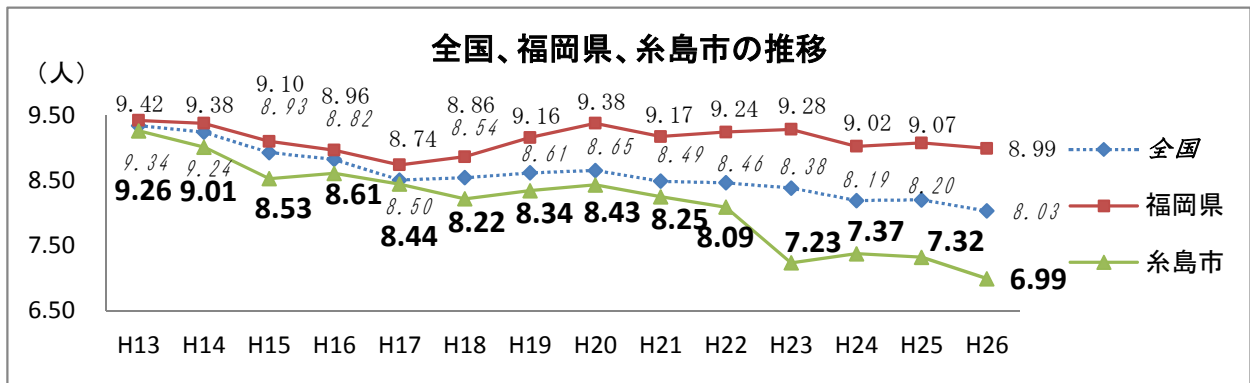
指標の説明

「粗出生数」とは、ある期間の始めの時点の人口総数に対する、期間中の出生者数で、各期間の出生者数の推移から、出生による人口増加（自然増）の傾向をみる指標として用いられる。

指標の算出根拠
基礎データの資料

粗出生数（人口千人当たり）＝出生者数÷期間の始めの人口総数×1,000
【出生者数：683人、人口総数97,735人
（平成25年10月～平成26年9月・糸島市）】

資料：総務省統計局「人口推計」
福岡県調査統計課「福岡県の人口と世帯年報」



統計データ(グラフ)
から見る市の動向

平成26年の糸島市の粗出生数（人口千人当たり）は、6.99人。平成13年以降でみると減少傾向にあり、平成15年には9人を、平成23年には8人を、平成26年には7人を割り込んでいる。なお、平成13年からの13年間で2.27人減少している。

また、全国の8.03人と比べ1.04人、福岡県の8.99人と比べ2.00人少ない。福岡都市圏内では、全17市町のうち最も少ない。

※福岡都市圏全域の粗出生数（人口千人当たり）は9.87人

※福岡都市圏9市8町の粗出生数（人口千人当たり）の単純平均は10.10人

(11) 合計特殊出生率 1.37

指標の説明

「合計特殊出生率」とは、地域ごとに15歳から49歳までの女性の年齢階級別出生率を合計したもので、1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

人口減少対策、子育て支援サービスなどの厚生労働行政に係る指標として用いられる。

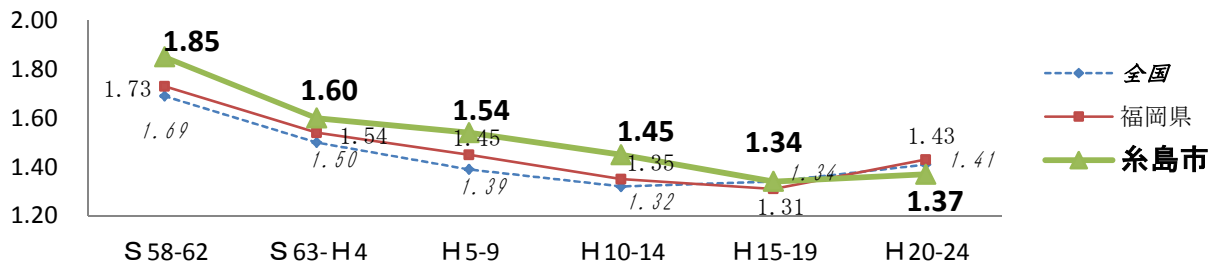
指標の算出根拠 基礎データの資料

$$\text{合計特殊出生率} = \frac{\text{平成20年1月1日～平成24年12月31日の母の年齢階級別出生数}}{\text{平成22年10月1日現在の年齢階級別女性人口} \times 5} \times 5$$

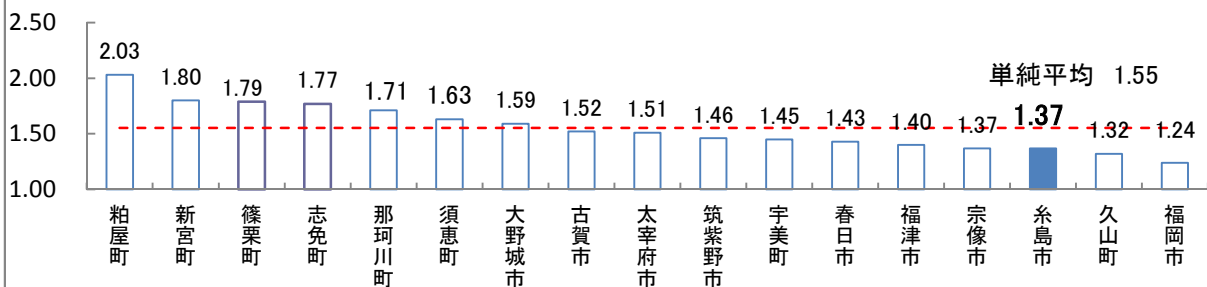
【(平成20年～平成24年・糸島市)】

資料：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」
総務省統計局「国勢調査報告」

全国、福岡県、糸島市の推移



福岡都市圏(9市8町)の比較【平成20～24年度】



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成20年～平成24年の糸島市の合計特殊出生率は、1.37。昭和58年～昭和62年以降で見ると、平成15年～19年まで一貫して減少していたが、平成20年～平成24年で増加に転じた。昭和58年～昭和62年と比べて0.48減少している。

また、全国の1.41と比べ0.04、福岡県の1.43と比べ0.06低い。
福岡都市圏内では、全17市町のうち3番目に低い。

※福岡都市圏9市8町の合計特殊出生率の単純平均は1.55

【人口・世帯に関する項目】

(12) 粗死亡数 9.55人 (人口千人当たり)

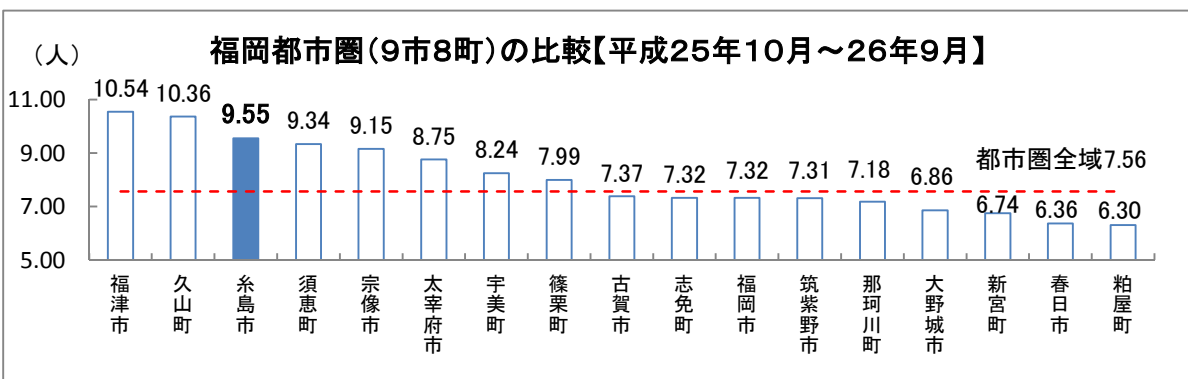
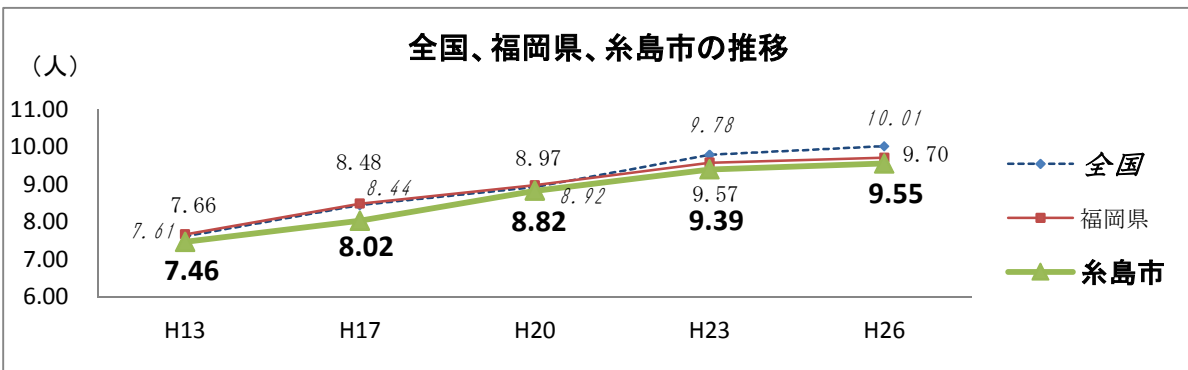
指標の説明

「粗死亡数」とは、ある期間の始めの時点の人口総数に対する期間中の死亡者数で、各期間の死亡者数の推移から、死亡による人口減少（自然減）の傾向をみる指標として用いられる。

指標の算出根拠
基礎データの資料

粗死亡数（人口千人当たり）＝死亡者数÷期間の始めの人口総数×1,000
【死亡者数：933人、人口総数：97,735人
（平成25年10月～平成26年9月・糸島市）】

資料：総務省統計局「人口推計」
福岡県調査統計課「福岡県の人口と世帯年報」



統計データ(グラフ)
から見る市の動向

平成26年の糸島市の粗死亡数（人口千人当たり）は、9.55人。平成13年以降で見ると、一貫して増加しており、平成17年には8人を、平成23年には9人を超えている。なお、平成13年からの13年間で2.09人増加している。

また、全国の10.01人と比べ0.46人、福岡県の9.70人と比べ0.15人少ない。

福岡都市圏内では、全17市町のうち3番目に多い。

※福岡都市圏全域の粗死亡数は7.56人

※福岡都市圏9市8町の粗死亡数の単純平均は8.04人

(13) 労働力比率 59.0%

指標の説明

「労働力比率」とは、15歳以上の人口のうち、就業者（休業者を含む）と完全失業者の合計が占める割合を指す。働く意思と能力を持つ人の割合を示す指標として用いられる。

指標の算出根拠 基礎データの資料

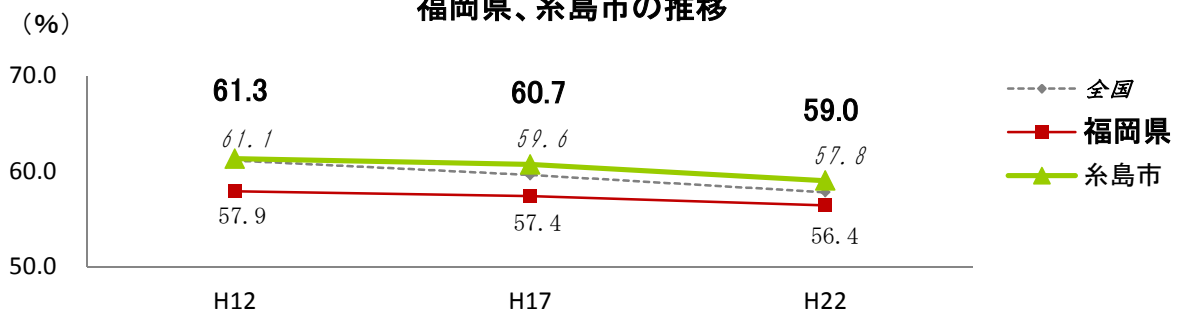
労働力比率＝労働力人口（就業者＋完全失業者）÷15歳以上の人口

【労働力人口：49,623人、15歳以上の市民数84,090人
（平成22年・糸島市）】

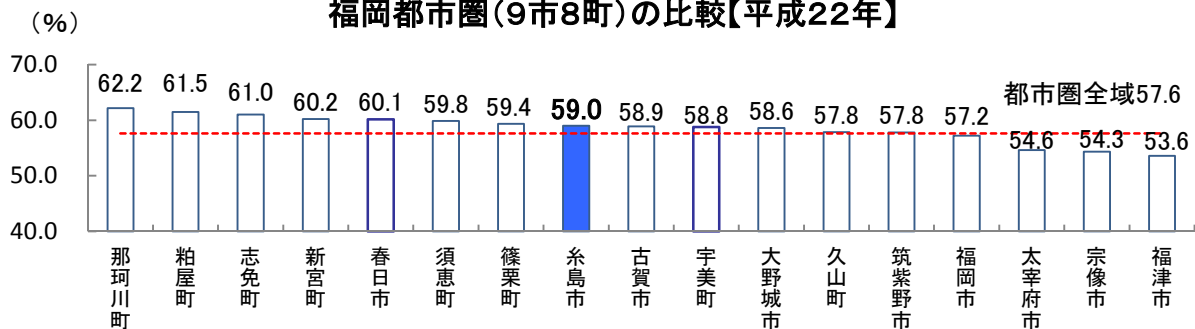
※平成12年及び17年は、1市2町の合算値。

資料：総務省統計局「国勢調査報告」

福岡県、糸島市の推移



福岡都市圏(9市8町)の比較【平成22年】



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の労働力比率は、59.0%。平成12年以降でみると、一貫して減少しており、10年間で2.3ポイント減少している。

また、全国の57.8%と比べ1.2ポイント、福岡県の56.4%と比べ2.6ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち8番目に高い。

※福岡都市圏全域の労働力比率は57.6%

※福岡都市圏9市8町の労働力比率の単純平均は58.5%

(14) 核家族世帯割合 63.7%

指標の説明

「核家族世帯割合」とは、世帯総数（一般世帯）に占める核家族世帯の割合で、核家族化の進展による社会構造の変化をみる指標として用いられる。

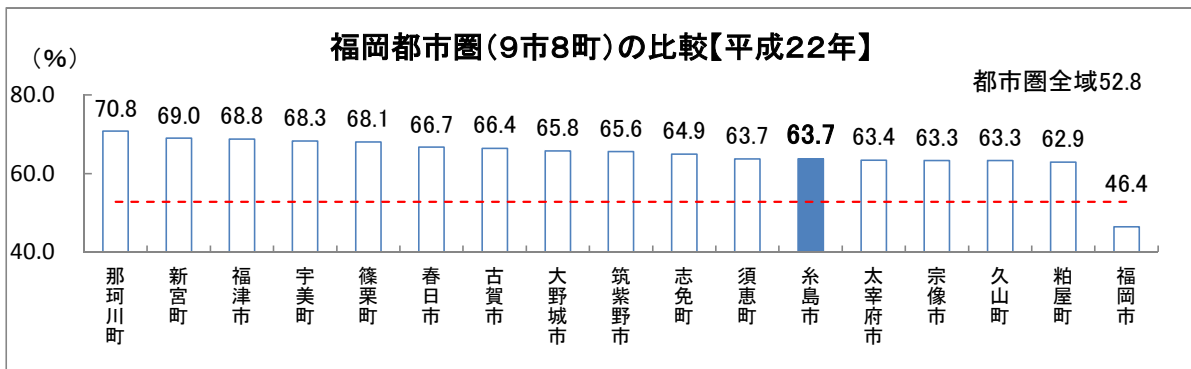
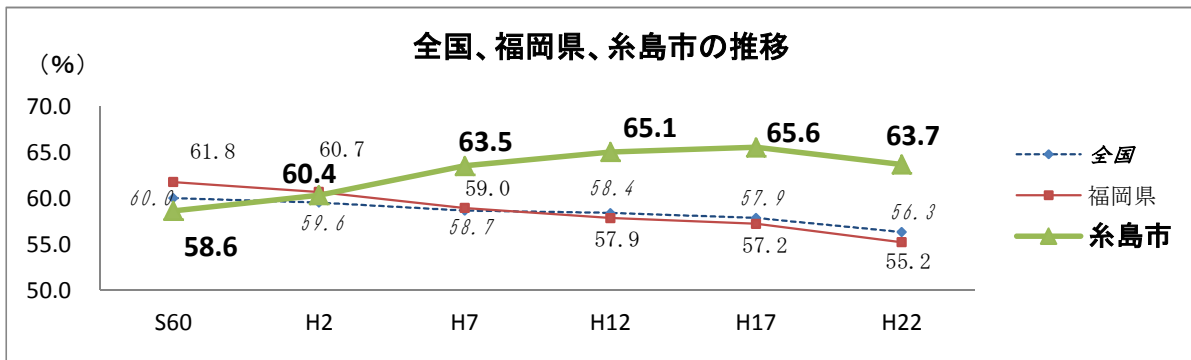
核家族世帯：①夫婦のみの世帯、②夫婦と子どもから成る世帯、
③男親と子どもから成る世帯、④女親と子どもから成る世帯

指標の算出根拠 基礎データの資料

核家族世帯割合＝核家族世帯数÷世帯総数

【核家族世帯数：21,481世帯、世帯総数：33,720世帯
(平成22年・糸島市)】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の核家族世帯割合は、63.7%。昭和60年以降で見ると、一貫して増加していたが、平成22年で減少に転じている。なお、昭和60年からの25年間で5.1ポイント増加している。

また、全国の56.3%と比べ7.4ポイント、福岡県の55.2%と比べ8.5ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち6番目に低い。

※福岡都市圏全域の核家族世帯割合は52.8%

※福岡都市圏9市8町の核家族世帯割合の単純平均は64.8%

(15) 単独世帯割合 19.3%

指標の説明

「単独世帯割合」とは、世帯総数（一般世帯）に占める単独世帯の割合で、一人暮らしの増加による社会構造の変化をみる指標として用いられる。

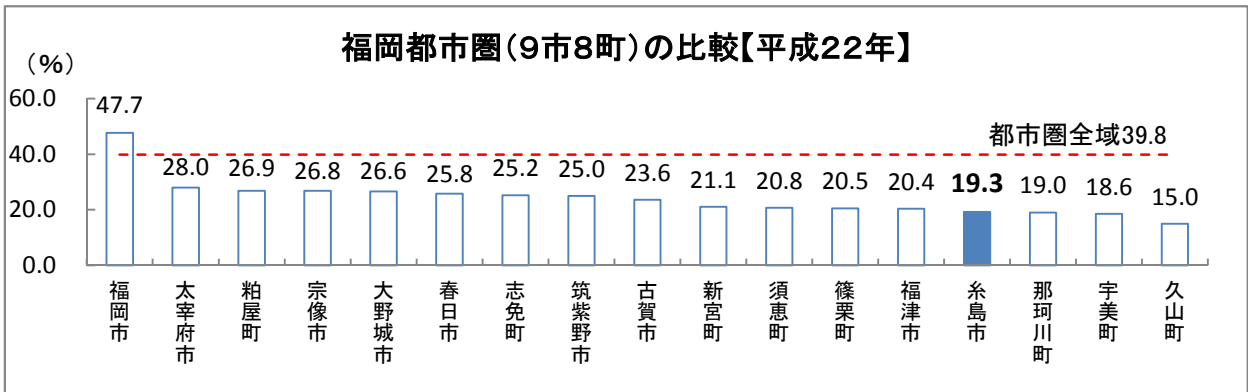
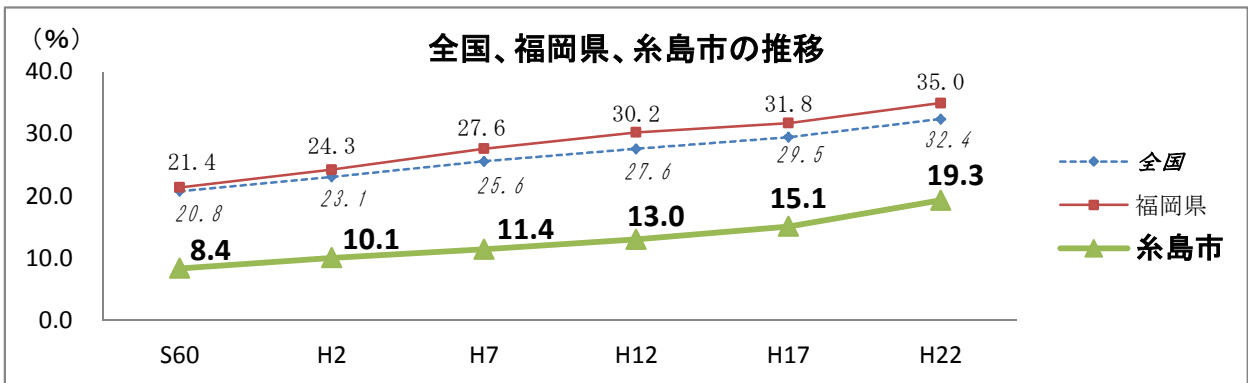
単独世帯：世帯員が一人の世帯（一人暮らしの世帯）

指標の算出根拠 基礎データの資料

単独世帯割合＝単独世帯数÷世帯総数

【単独世帯数：6,504世帯、世帯総数：33,720世帯
（平成22年・糸島市）】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の単独世帯割合は、19.3%。昭和60年以降で見ると、一貫して増加しており、25年間で10.9ポイント増加している。
また、全国の32.4%と比べ13.1ポイント、福岡県の35.0%と比べ15.7ポイント低い。
福岡都市圏内では、全17市町のうち4番目に低い。

※福岡都市圏全域の単独世帯数割合は39.8%

※福岡都市圏9市8町の単独世帯数割合の単純平均は24.1%

【人口・世帯に関する項目】

(16) 65歳以上世帯員のいる世帯割合 41.4%

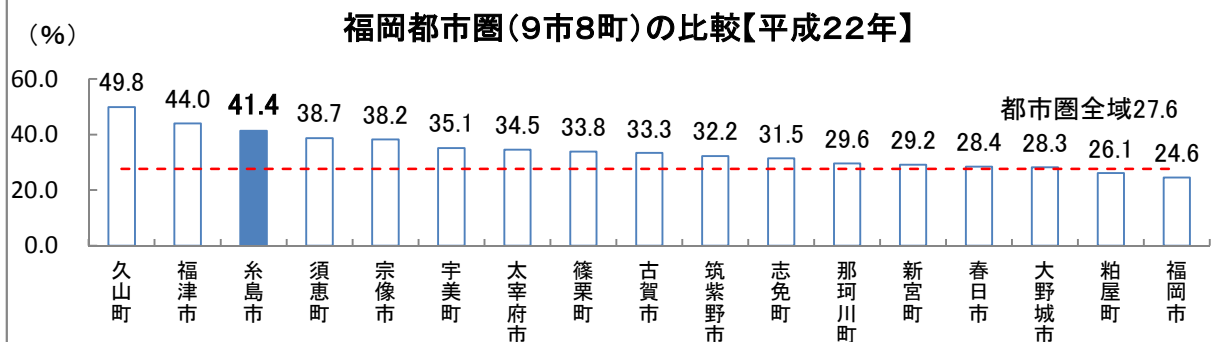
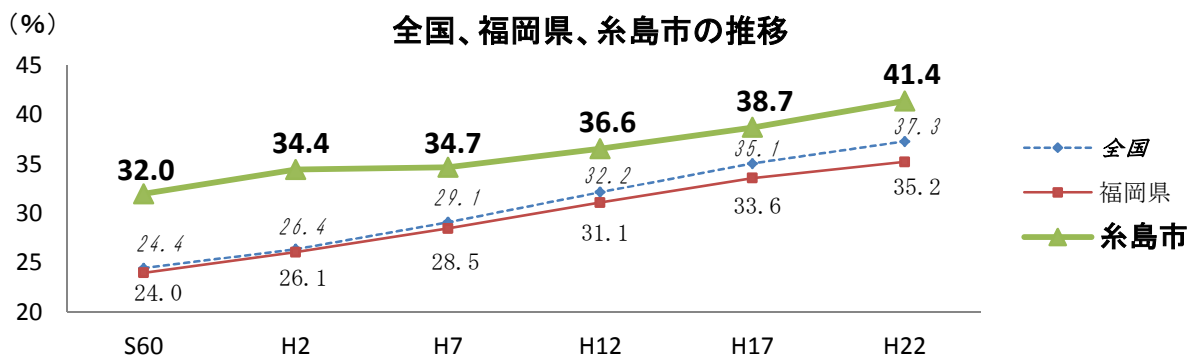
指標の説明

「65歳以上世帯員のいる世帯割合（以下、高齢世帯員のいる世帯という。）とは、世帯総数（一般世帯）に占める高齢世帯員のいる世帯数の割合で、高齢化の進展に伴う社会構造の変化をみる指標として用いられる。

指標の算出根拠
基礎データの資料

高齢世帯員のいる世帯割合＝高齢世帯員のいる世帯数÷世帯総数
【高齢世帯員のいる世帯数：13,958世帯、世帯総数：33,720世帯（平成22年・糸島市）】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ)
から見る市の動向

平成22年の糸島市の65歳以上世帯員のいる世帯割合は、41.4%。昭和60年から降でみると、一貫して増加しており、25年間で9.4ポイント増加している。

また、全国の37.3%と比べ4.1ポイント、福岡県の35.2%と比べ6.2ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち3番目に高い。

※福岡都市圏全域の65歳以上世帯員のいる世帯割合は27.6%

※福岡都市圏9市8町の65歳以上世帯員のいる世帯割合の単純平均は34.0%

(17) 高齢夫婦のみの世帯割合 10.3%

指標の説明

「高齢夫婦のみの世帯割合」とは、世帯総数（一般世帯）に占める高齢夫婦のみの世帯数の割合で、高齢化の進展に伴う社会構造の変化をみる指標として用いられる。

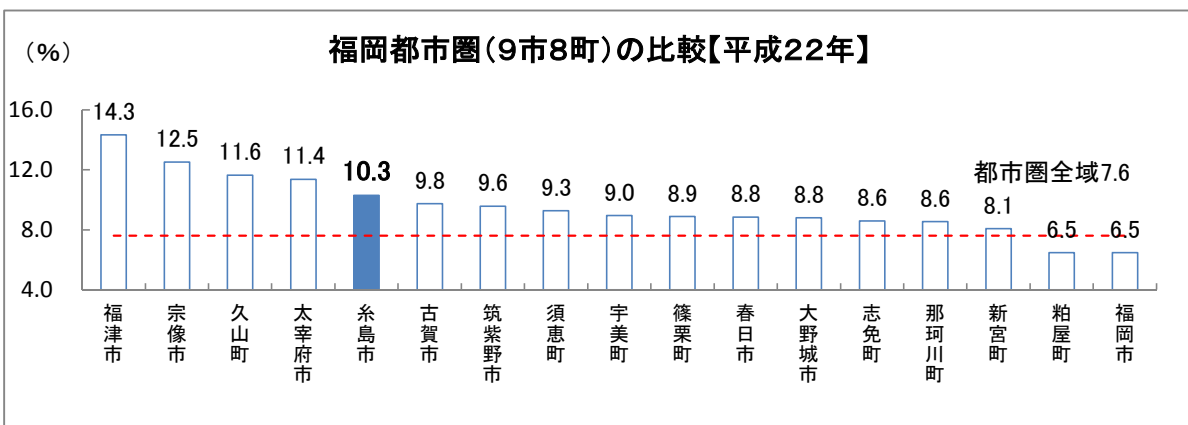
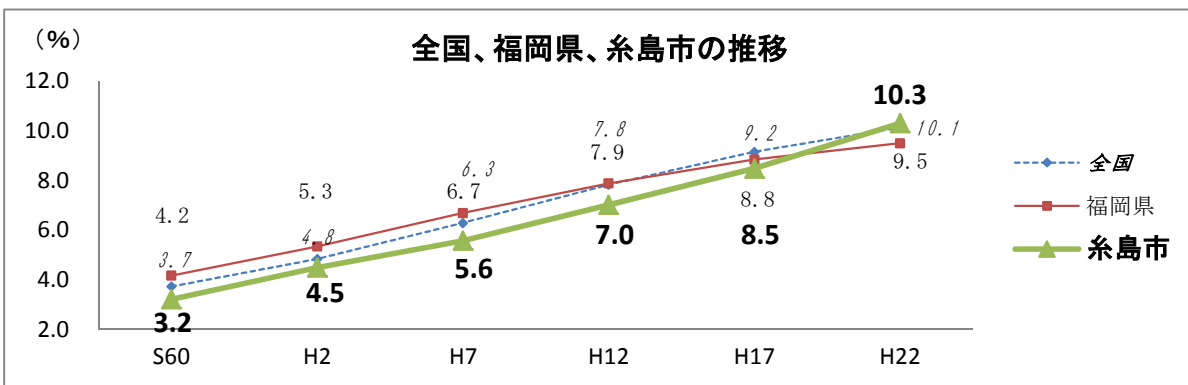
高齢夫婦のみの世帯：夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

指標の算出根拠 基礎データの資料

高齢夫婦世帯割合＝高齢夫婦世帯数÷世帯総数

【高齢夫婦世帯数：3,469世帯、世帯総数：33,720世帯
(平成22年・糸島市)】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の高齢夫婦のみの世帯割合は、10.3%。昭和60年以降で見ると、一貫して増加しており、25年間で7.1ポイント増加している。

また、全国の10.1%と比べ0.2ポイント、福岡県の9.5%と比べ0.8ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち5番目に高い。

※福岡都市圏全域の高齢夫婦のみの世帯割合は7.6%

※福岡都市圏9市8町の高齢夫婦のみの世帯割合の単純平均は9.6%

(18) 高齢単身世帯割合 6.7%

指標の説明

「高齢単身世帯割合」とは、世帯総数（一般世帯）に占める高齢単身世帯数の割合で、高齢化の進展に伴う社会構造の変化をみる指標として用いられる。

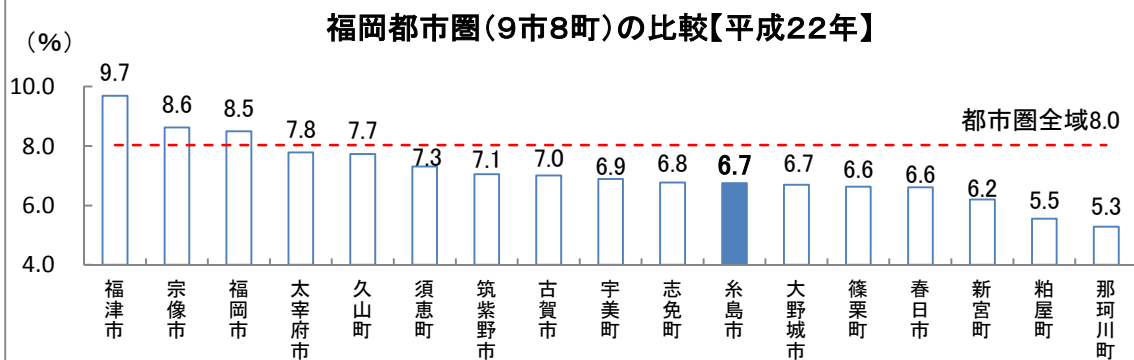
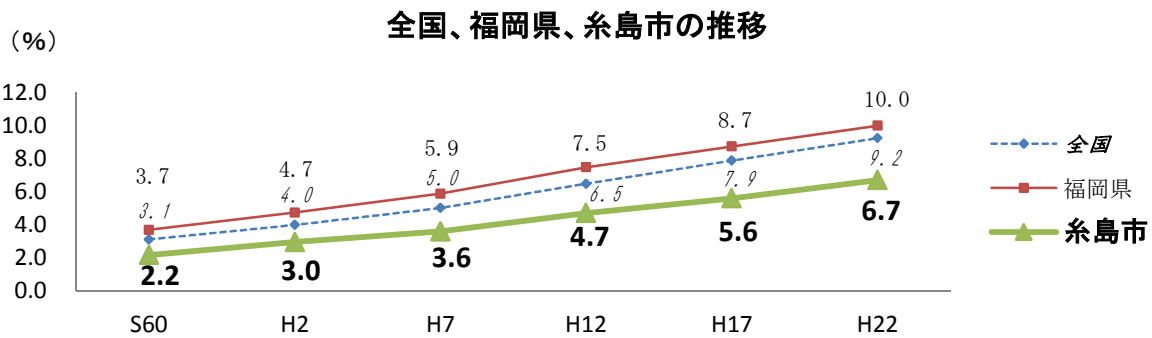
高齢単身世帯：65歳以上で、かつ、一人のみの一般世帯

指標の算出根拠 基礎データの資料

高齢単身世帯割合 = 高齢単身世帯数 ÷ 世帯総数

【高齢単身世帯数：2,275世帯、世帯総数：33,720世帯
(平成22年・糸島市)】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の高齢単身世帯割合は、6.7%。昭和60年以降でみると、一貫して増加しており、25年間で4.5ポイント増加している。

また、全国の9.2%と比べ2.5ポイント、福岡県の10.0%と比べ3.3ポイント低い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち7番目に低い。

※福岡都市圏全域の高齢単身世帯割合は8.0%

※福岡都市圏9市8町の高齢単身世帯割合の単純平均は7.1%

(19) 未婚率 25.6%

指標の説明

「未婚率」とは、15歳以上の人口総数に占める未婚者数の割合で、婚活支援や少子化問題などに係る指標として用いられる。

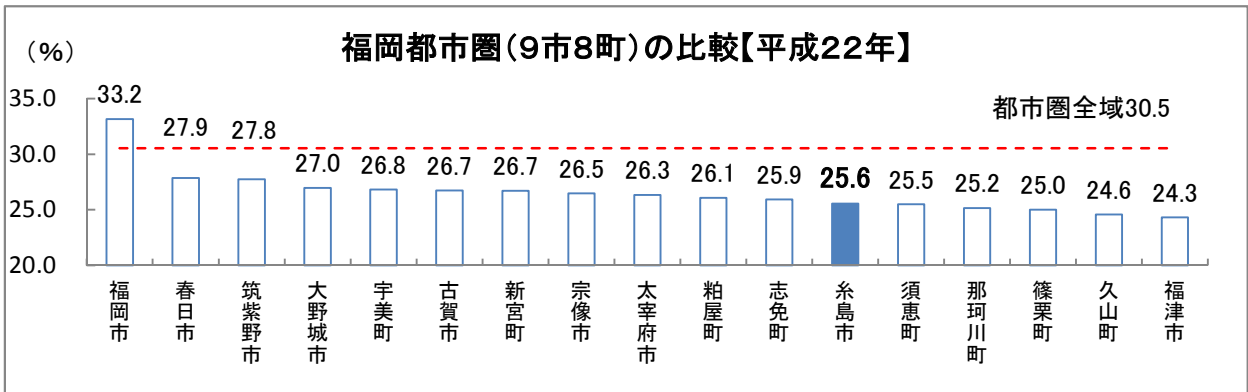
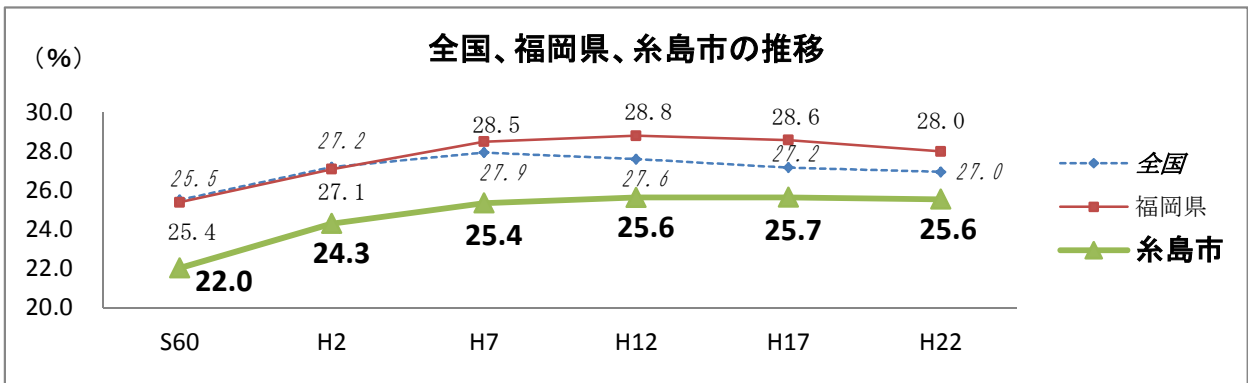
未婚：まだ結婚したことのない人（死別・離別は含まない。）
（年齢区分：15歳以上）
※届出の有無にかかわらず、実際の状態による。

指標の算出根拠 基礎データの資料

未婚率＝未婚者数÷15歳以上の人口総数

【未婚者数：21,488人、15歳以上の人口総数：84,090人
（平成22年・糸島市）】

資料：総務省統計局「国勢調査報告」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成22年の糸島市の未婚率は、25.6%。昭和60年以降で見ると、平成7年までは一貫して増加していたが、その後はほぼ横ばいで推移している。なお、昭和60年からの25年間で3.6ポイント増加している。

また、全国の27.0%と比べ1.4ポイント、福岡県の28.0%と比べ2.4ポイント低い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち6番目に低い。

※福岡都市圏全域の未婚率は30.5%

※福岡都市圏9市8町の未婚率の単純平均は26.5%